

遠刈田小



これがイチオシ

アートに触れ感性磨く

遠刈田小学校では、地域再生を目指す「とおがったプロジェクト」との連携を通して、多彩な活動をしています。国内外のアーティストが訪れ、音楽や造形などのワークショップを継続的に開催しています。プロの表現力や異文化の作品に直接触れることで、児童たちは感性を磨きながら国際交流を楽しんでいます。地域と学校が一体となり、アートを通じて日常をわくわくさせるプロジェクトならではの活気あふれる取り組みです。

学校名 蔵王町立遠刈田小学校
所在地 蔵王町遠刈田温泉小妻坂山25
創立 1947年
電話 0224(34)2104
校長 佐久間 毅
児童数 51人

伝統守り心に響く音色を

鼓笛隊演奏地域で披露

遠刈田小学校には、本年度で60年の歴史を誇る「トランペット鼓笛隊」が活躍しています。2、6年生が参加し、このうち2、4年生は鍵盤ハーモニカ、5、6年生は特別楽器を担当します。主な演奏は年に4回。4月は温泉街を1周するエコライン開通パレード、5月は隊列移動が見どころの運動会、6月は遠刈田を盛り上げる大道芸パレード、10月はこけし祭りやオープニング演奏を披露します。観客の声援は、私たちの大きな力になり、大きな達成感を味わうことができます。伝統を絶やさないための準備も欠かせません。毎年12月になると、4年生が特別楽器の練習を始め、1月後半には演奏技術を確かめる認定会が開かれます。昨年度から1年生も鍵盤ハーモニカの練習を始め、全学年でパレードに向けた猛練習に励んでいます。私たちは練習を繰り返すことで、先輩から後輩へと大切な伝統を受け継いでいます。これからも心に響く音色を届けていきたいです。



遠刈田小の児童による「トランペット鼓笛隊」

わが校わがまち スクール通信



今回は
米山東小 (登米市)
住吉台小 (仙台市)

全学年一緒に活動大切に

歩いて遠足・焼き芋集会

米岡小学校では、6年生が主体となって全学年が一緒に、多くの活動に取り組みます。4月には班ごとの顔合わせがあり、自己紹介やゲームをします。6年生が考えた「へびじゃんけん」や「王様じゃんけん」などのゲームを通して、楽しく遊びます。秋には大嶽山までの全校遠足があります。往復8キロの道のりを班ごとに並んで歩きます。大嶽山では班ごとに輪になって、それぞれが準備してきたおやつを食べたり、班ごとに遊んだりします。焼き芋集会もあり、各地区の区長さんやボランティアの人が来校して、火起こしや火の管理をしてくれます。できあがった焼き芋は班ごとに集まって、みんなでおいしく食べています。



米岡小の全校活動の様子。左上から時計回りに「顔合わせ会」「大嶽山の登山」「豚汁を食べる児童たち」「焼き芋集会」

米岡小



これがイチオシ

合同運動会で米岡音頭

米岡小学校では毎年5月、コミュニティとの合同運動会があり、1～3年生が米岡音頭を踊ります。地域に伝わる伝統の踊りです。地域のボランティアの人たちが踊り方を教えてくれます。途中でうちわを4回たたいたり、持ち手の部分をくると回したりするのが見どころです。

アンコールになると、上級生や地域の人たちも一緒に米岡音頭を踊ります。閉校まで残り1年半になりますが、これからも米岡音頭を大切に受け継いでいきたいと思います。

学校名 登米市立米岡小学校
所在地 登米市米山町西野古館廻27の2
創立年 1873年
電話 0220(55)2009
校長 白石 達哉
児童数 90人

回文団扇 作って学んで

仙台 荒町小児童が体験



仙台市若林区の荒町小(児童425人)で、3年生約70人が、幕末の荒町で盛んだったとされる「回文団扇」作りを体験した。児童館職員や大学生の指導を受け、「昼飯の楽しめる日」「確かにこの八百屋の子に貸した」などオリジナルの回文を書いたうちわを仕上げた。

完成したうちわを見せ合う子どもたち。3年の遊佐美咲さん(9)は「タイの絵がお気に入り。うまくできたので、お母さんに見せて喜ばせたい」と笑顔だった。回文団扇は江戸時代末期の荒町で、こうい屋の主人細屋勘左衛門(1796～1869年)が始めたといわれ、その歴史にまつわる紙芝居も披露された。紙芝居を読んだ荒町商店街振興組合の庄子康一さん(53)は「うちわ作りを通じて荒町の歴史を知り、まちをもっと好きになってほしい」と話した。(7月7日朝刊より)



「いたいのいたいのつかまえて」

千葉 智江 作
あかね書房



苦手なこと頑張れるかな

「イタイノイタイノとんでいけ!」。けがをした時、こんなおまじないをもらったことはありませんか。この「イタイノ」はどこに飛んでいくのでしょうか。

苦手な逆上がりの練習でけがをした「まなみちゃん」が保健室の先生に飛ばしてもらった「イタイノ」は、なんと「かみなりくん」が持っていました。雲の上はたくさん人間が空に飛ばした「イタイノ」でいっぱい。だから「持ち主に返したい」と、かみなりくんがやって来た

のです。「イタイノ」が返ってくると、「もう一度いたくなっちゃうのかな?」と、心配するまなみちゃん。保健室の先生は、子どものときに飛んでいった「イタイノ」も大切な思い出だから返してほしいと、言っています。

さて、まなみちゃんのかみなりくん「イタイノ」を返してもらっても、苦手な逆上がりができるようになるのかな。一緒に「頑張ってみよう!」と思えるお話です。小学校低学年から。(宮城県図書館 勝守雅子)